

第5学年 学級活動（2）指導案

糸島市立加布里小学校

指導者 四方田 直

1 共通事項（2） 日常生活や学習への適応及び健康安全

ウ 望ましい人間関係の形成

2 題材名 「楽しい自然教室にむけて～よりよい聴き方を考えよう～」

3 児童の実態

児童の実態
<p>本学級の子ども達は、「はじめがあり 友だちを大切にし あきらめずに 努力する 52ええチームワークのクラス!」を学級の目標に設定し、運動会や学級のマーク・旗・歌をつくる活動を男女で協力しながら実践し、学校・学級の一員としての自覚を身につけ始めている。また、係活動や休み時間を通して、男女が協力して新しい友だちとのかかわりをつくりつつある。しかし、特定の子とだけ遊ぶ子や自主的に友だちの輪に入れず休み時間に一人で過ごす子もいる。また、自分の思いを強い口調で伝えたり、異性の思いを捉え違いしたりしてトラブルになることが時々見られた。そこで、人間関係を広げられるこの時期に、望ましい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための効果的な活動を取り入れることは、男女が信頼し支え合って楽しい学級生活をつくる態度を育てる上で重要であると考えます。</p>

4 指導計画 1時間

本題材について	題材「楽しい自然教室にむけて～よりよい聴き方、伝え方を考えよう～」	活動計画と振り返り活動の位置付け
<p>○年間指導計画における本題材の位置づけ 2学期の学級活動を見通す中で、総合的な学習の時間の「自然教室」と関連させながらよりよい人間関係を築いていくための聴き方のスキルを身に付けるための時間として設定した。</p> <p>○題材設定の理由 1学期の児童相互のかかわり合いを振り返ると言葉の行き違いからトラブルを起さることが度々見られた。そこで、自分たちの学級目標を達成するために、互いに気持ちのよい会話のスキルを身に付けることを題材化し設定した。</p>		<p>【つくる段階】 (1) 子ども達のかかわり方の実態を把握し、「楽しい自然教室にむけて～よりよい聴き方を考えよう～」という課題を題材化する。 (2) 朝や帰りの活動、国語の学習を通してスピーチをし合う活動を日常的に行う。 ◇振り返り活動①…日常の出来事等について友達と思いを伝え合うよさを体験すること</p>
<p>○ 発達段階に即した題材の展開 よりよい人間関係を築くために、互いに気持ちのよい話の仕方や聴き方、言葉のかけ方を身に付けさせるとともに、自分の課題に合った友だちへのかかわり方を自己決定させ、信頼し支え合い、学級の友だちと楽しい学級生活を送ろうとする実践的な態度を高めていきたい。 そのためまず、「つくる」段階では、事前に友だちとのかかわり方についてアンケートを実施したり1学期の友だちとのかかわりについて振り返らせてしておく。 次に、「ふかめる」段階では、よりよい友だちとの関係を築くためには、気持ちのよい聴き方が大切だということに気付くための聴き方のスキルを身に付けさせる。そして、これから実践していく目標を自己決定し、意欲を高める。 そして、「おこなう」段階では、自己決定した方法をふり返りカードで自己評価しながら実践する。 最後に、「たしかめる」段階では、学級全体でそれまでの実践をふり返り、学級の変化に気付かせ、継続して実践していこうとする意欲を高める。</p>		<p>【ふかめる段階】・・・(本時) (3) 聴き方が原因でけんかになった話合いの挿絵を提示したり、聴き方アンケートの結果を提示したりし、よりよい聴き方を身に付けていく大切さに気付かせ課題をつかませる。 (4) 相手を気持ちよくする話の聴き方と相手を不快にする話の聴き方を体験させ、比較させることでどのような聴き方が大切か気付かせる。 (5) 聴き方のスキル練習を行い、自分に必要な聴き方のポイントを自己決定し、チャレンジカードに記入する。 (6) 自己決定したことを交流し合い、実践意欲を高める。 ◇振り返り活動②…気持ちのよい聴き方を通して友達との関係をよりよくしようという実践への意欲を高める。</p>
		<p>【おこなう段階】 (7) チャレンジカードを使い振り返りを行いながら自己決定したことを実践する。 ◇振り返り活動③…気持ちのよい聴き方で嬉しかった体験を積み重ねること</p> <p>【たしかめる段階】 (8) 活動全体を振り返り、自分や友だちのよさを交流する。 ◇振り返り活動④…チャレンジを通して、気持ちのよいコミュニケーション能力が身についたことを感じ取ること</p>
活動のねらい		
【男女が協力して社会参画する態度】	【人間関係】	【自治的能力】
<p>○ 男女の気持ちのよいコミュニケーションのよさに気付き、自分の課題に気付くことができる。</p>	<p>○ 自分の課題に合った聴き方のスキルを具体的に見つけ、チャレンジ内容を決めることができる。</p>	<p>○ 学級みんなと仲良くなるために気持ちのよい聴き方を理解し実践しようとする事ができる。</p>

5 本時のねらい

本時は、男女共同参画教育のねらいの一つである「互いを認め、高めあう実践的態度の育成」を目指すものである。実践的態度とは、自己のよさや可能性に気付き、自己の能力を最大限に伸ばそうとする自己の個性を伸ばさせようとする態度や、友達の個性を認め、男女の別なく共に協力していこうとする態度のことである。そこで、本時では、以下の2点をねらいとして位置づけ学習活動を行っていこうと考える。

- 友達（男女）とのよりよい関係を築くために、コミュニケーションスキルを身に付け、気持ちのよい聞き方がかかわっていこうという意欲をもつことができる。 【社会参画の態度】
- 友達（男女）とのコミュニケーション活動体験をもとに、相手の話を聴く時に必要な自分の聞き方のポイントを自己決定することができる。 【人間関係（思いやりの心）】

6 準備

板書用資料：話し合いでけんかをしている挿絵、 聴き方アンケートの結果、 気持ちのよい聞き方カード、 気持ちのよくない聞き方カード
 児童用資料：気持ちのよい聞き方カード、 気持ちのよくない聞き方カード、 チャレンジカード

8 本時の展開

	学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 課題の共通化を図るとともに、本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 話し合いでけんかになった挿絵を見て、聴き方の大切さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ちゃんと聴いていないのが原因だ。 ・ 男子と女子で意見が合わなかったかもしれない。 <p>(2) 「聴き方アンケート」の結果をもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話がはずんだ時 ○ 話を無視された時 <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 楽しい自然教室にするために、よりよい聞き方を考えよう。 </div>	<p>※自然教室の話し合いの場面でけんかになった挿絵を提示し、聴き方に課題があることをつかませる。</p> <p>※アンケートの結果を提示し、「話がはずんだ時はどんな時か。」「話している時に無視されていると感じた時はどんな時か。」と問いかけることで、自分たちにも聴き方に課題があることをつかませる。</p>
展 開	<p>2 気持ちのよい聞き方を話し合いによってみつける。</p> <p>(1) スピーチ活動を通して、気持ちのよい聞き方とよくない聞き方を体験する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">気持ちのよい聞き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を見て・笑顔で ・ うなずきながら ・ あいづちをうったり、聞き返したりする ・ 最後まで聞く ・ よそ見や手遊びをしない ・ 感想を伝える </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">気持ちのよくない聞き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を見ない・笑わない ・ よそ見をする ・ かみの毛をいじったり、手遊びをしたり ・ 途中で違う話をする ・ 聞く気がない態度を表す </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;"><同性同士と男女のペアでの聴き方の違い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同性同士のスピーチは素直に聴くことができるが、男女のスピーチだと素直に聴くことができなかった。 ・ 男女同士だとどうしても目をあわせにくい。 </div> <p>(2) 活動したことをもとに、聴き方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちのよい聞き方は、話しやすい。 ○ 気持ちのよくない聞き方は、嫌な気持ちになる。 	<p>※同性同士で話しているモデルや男女で話しているモデルの2つの方法を示し、聴き方を比較させる。</p> <p>※同性同士のペアや男女のペアで1対1スピーチを行わせ、自分の聴き方を振り返らせる。</p> <p>※2つの聴き方の違いや話し手の感じ方の違いを比較させ、気持ちのよい聞き方のポイントや同性同士と男女で行った時の聴き方の違いに気付かせる。</p>

	<p>3 気持ちのよい聴き方を意識してスピーチ活動をし、自分に必要な聴き方のポイントを選択し、自己決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ うまくできているところを見つけ合うこと ○ 自分に必要な聴き方のポイントを選択し自己決定すること 	<p>※毎回気をつけるポイントを意識してきかせる。 ※互いの聴き方のよさを評価させる。 ※よい聴き方カードをもとに自己決定させ、チャレンジカードに記入し、意欲を高める。</p>
<p>終 末</p>	<p>4 本時学習を振り返り、今後の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を通してどのようなことに気付いたかを明らかにすること ○ 日常生活での改善に生かす実践への意欲をもつこと 	<p>※評価。</p>

○ 指導の実際

■ つくる段階【事前の活動】

日常の出来事等について友達と思いを伝え合う良さを体験させるために、朝の会や国語の学習を通して、スピーチをし合う活動を日常的に行った。

「自分の好きなもの」や「最近楽しかった思い出」を題材に10分間の時間を設定し、たくさんの友達と自由にスピーチ活動を行った。

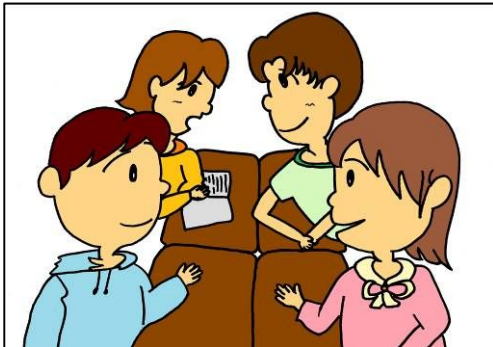
十分に自分から話しかけることができなかつたり、自分のスピーチをすることで精いっぱいの子ども達も見受けられた。最初は同性間のスピーチから、段階的に男女間でのスピーチに移行させていった。スピーチ活動の回数を積み重ねる中で、積極的に相手にかかわって行こうとする姿が見られるようになり、子ども達から「今日は、スピーチはしないんですか？」と楽しみにしている声もあった。

友達とコミュニケーションを図る楽しさを体験することができた。

■ 深める段階【本時】

導入：『課題の共通化を図るとともに、本時学習のめあてをつかむ。』

○話し合いで、けんかになった挿絵を見て、聴き方の大切さについて話し合った。



[挿絵を見て]

T：どんな様子ですか？

C：みんな真剣に話し合っている。

T：話し合いを進めるとこんな風が変わってしまいました。どうかな？

C：話をしている女の子が怒っているみたい。

C：男子と女子の意見が合わないのではないかな。

C：落書きを始めた子もいる。

C：あくびをして全然聞いてない。

T：皆も話し合いをしていて、こんな風になってしまった経験はありませんか？

C：この前の話し合いでけんかになった。

C：話しているのに聞いていない人がいたことがある。



挿絵について話し合い、自分たちの経験を振り返らせた。今まで話し合いがうまくいかなかった時の経験や、発表している時や日直をしている時に話をしっかりと聴いてもらえなかった経験と結び付けて挿絵の子の様子について考えていた。話し合いがうまくいくためには、聴き方も大切な要因の一つであることに気付くことができた。

○「コミュニケーションアンケート」の結果をもとに話し合う。

コミュニケーションアンケート	
	とてもよい ← → よい
☆授業中の聞き方	2人 20人 12人 1人
☆係や班での聞き方	5人 18人 11人 1人
	ある ない
☆よ見や冷たい反応	28人 7人

☆話しにくい時
・ほかの話をし始めた。・よそ見
・ボーッとしていた。・反応が悪い。
・冷たい反応(「あそ、ア?」)・反対
・他の人と話し始めた。・手遊び
・笑顔がない

☆話かはずむ時・話しやすい時
・目を見てくれる時
・反応がある
・うなずく
・こちらを向いている
・笑顔

事前にとっておいたコミュニケーションアンケートの結果を提示し、自分達の話し合いの聴き方に

ついてどんな課題があるのかを確認した。自分は、話の聴き方ができていると感じている子どもが6割だった。話をしている時に、よそ見や冷たい反応でいやな思いをしたことがあると答えた子どもは8割いた。この結果から子ども達は、自分では気持ちのよい聴き方ができていると思っているが、話している立場からすると、できていないこともたくさんあることに気付いた。そこで、どのような聴き方をすれば、気持ちのよいコミュニケーションをとれるようになるのかを考えることを通して本時の学習課題をつかむことができた。

展開1：『気持ちのよい聴き方を話し合いによって見つける。』

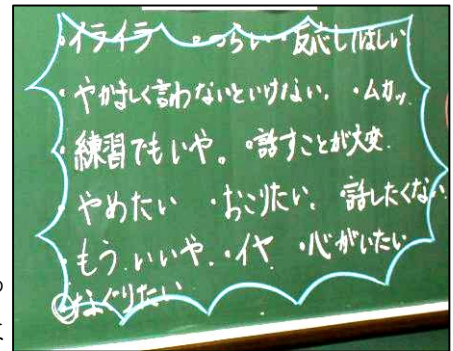
○気持ちのよい聴き方とよくない聴き方を体験し聴き方について話し合う。

事前に準備しておいた、「自然教室で楽しみにしていること BEST3」のスピーチを2人組で行った。

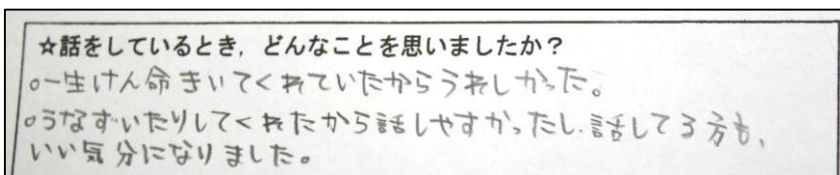
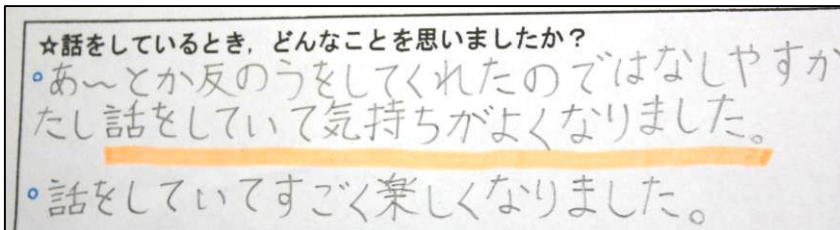
まずは、気持ちのよくない聴き方で聞いてもらい、話している時にどのようなことを思ったかを考えさせた。多くの子ども達は、「イライラした。」「途中でやめたくなった。」「等と、話しにくさを感じていた。

気持ちのよくない聞き方

- 相手を見ない ○知らん顔
- よそ見 ○かみの毛をさわる
- 手遊びをする
- 聞き返す「えっ!」「何て!？」
- ちがう話をする。
- 「ところで、～～。」
- 聞く気がないたいどをする。



次に、気持ちのよい聴き方で聞いてもらい、話している時にどのようなことを思ったかを考えさせた。気持ちのよくな時の聞き方と比べて、楽しかったことや話しやすかったことを感じていた。



感じたことを出し合う中で、相手を見ること、うなずいたり、反応しながら聞いたりすると話している方も楽しくなり、もっと話したくなることに気付いた。

展開2：『気持ちのよい聴き方を意識してスピーチ活動をし、これから伸ばしていきたい聴き方スキルを選択しめあてをたてる。』

この段階では、ペアで話合った気持ちのよい聴き方のポイントを意識して、多くの友だちとスピーチを行わせることにした。また、「よくできている聴き方」、「不十分な聴き

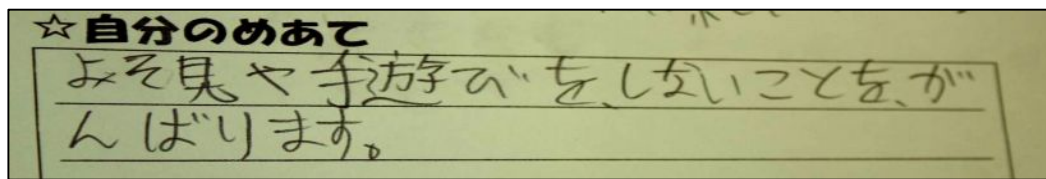
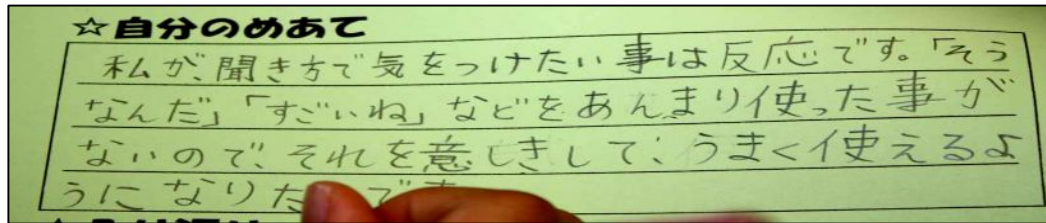
気持ちのよい聞き方

- 相手を見る ○笑顔
- うなずく・あいづち・反応
- 「ウンウン。」「へえ〜。」
- 最後まで聞く
- よそ見や手遊びをしない
- 感想を伝える。
- 「ぼくも〜」「〜いいね。」



方」を意識しながら話し合いをすすめるように確認するとともに、自分自身の聴き方を振り返りながら自分の聴き方のめあてを自己決定させてスピーチ活動を行うようにした。

その結果、「うなずいたり反応したり聴けていないことがあったので、これからは、反応しながら聴くことをがんばりたい。」「たまに、よそ見をしながら聴くことがあるから、相手の目を見て聴くように頑張ります。」などの具体的なめあてをもってよりよいスピーチ活動を目指すことができたと考える。



終末：『本時学習を振り返り、今後の実践意欲を高める。』

今日の学習で、どんな聴き方が気持ちのよい聴きかが分かりました。ニコニコ笑顔で聞いて、話し合いをして、楽しい自然教室になるように頑張りたいと思います。



(3) おこなう段階・たしかめる段階

自然教室に向けての話し合いや班での話し合いの前にチャレンジカードに立てた自分のめあてを確認した。話し合いの中で、自分のめあてを意識しながら取り組む姿が多くみられた。さらに、めあてを達成できた子どもは、新たなめあてを立てて取り組むことが出来ていた。

■ 広げる段階【事後】

よりよい人間関係を広げながら充実した「自然教室」を実施するために、本時後の学級生活において、「よりよい自然教室にするために」をテーマにして、男女のペアでのスピーチ活動を毎日の帰りの会の時間に行った。事前の活動では、男女間でのスピーチ活動において不十分な傾聴行動が多く見受けられたが、本時の学習を行ったことで、男女が互いのよさを認めながら進めるスピーチ活動が見受けられるようになった。

○成果と課題

- スピーチ活動を通して、自分の思いを一方向的に伝えるだけではなく、相手の思いを受け入れながら、譲り合う姿が見られるようになってきた。
- 聴くスキルを身に付けることに重点をおいて取り組んだが、コミュニケーションのもう一つの立場である、話すスキルを育成する活動も計画していきたい。
- 男女が協力して様々な活動場面で、互いを尊重した「話し方」や「聴き方」を身につけていくような計画的、意図的な活動を継続的に位置付ける必要がある。